



令和4年度 企画展

# 震災復興と発掘調査



南相馬市博物館

# はじめに

平成 23 年(2011)3 月 11 日は、南相馬市内の小・中学校で卒業式が執り行われ、多くの児童・生徒たちが希望を胸に学び舎を巣立った日でしたが、14 時 46 分に岩手県三陸沖を震源とするマグニチュード 9 の大規模な地震が発生し、南相馬市も震度 6 弱の地震に襲われました。

この地震により、東北地方の沿岸部の各地に巨大な津波が押し寄せ、多くの尊い人命や家屋などの貴重な財産を失うとともに、東京電力株式会社福島第一原子力発電所では、原子炉の制御が困難となり、福島県を中心とする広範囲に放射性物質を放出するという未曾有の複合災害が引き起こされました。

こうした東日本大震災からの復興のため、政府は震災発生から 10 年のうち前期 5 年間を「集中復興期間」、後期 5 年間を「復興・創生期間」と位置づけ、岩手・宮城・福島の被災 3 県でさまざまな復興事業が進められることになりました。

当市でも、住宅を失った被災者への居住環境整備をはじめとするさまざまな復興事業が計画されると同時に、復興事業地内にある文化財の保護施策を迫られることになりました。

各地域に残されてきた文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の財産です。また、その地域の歴史、伝統、文化の理解のためには欠くことのできない貴重な資産であると同時に、地域のアイデンティティ形成の根幹をなすものです。

本企画展では、東日本大震災発生から今日まで、市内の各所で実施された復興事業と埋蔵文化財の発掘調査成果を振り返り、当市が育んできた歴史の一端を紹介します。これらの発掘調査の成果が、震災を経験した当市の復興の礎として活用されることを切に願います。

最後になりますが、当市の復興に際しては、関係機関の皆様や全国各地から温かなご支援、ご尽力を賜りましたことに、衷心より感謝を申し上げて、本企画展開催のあいさつといたします。

# 東日本大震災の概要

平成 23 年(2011) 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震は、宮城県牡鹿半島の東南東沖約 130 km 付近を震源とし、発生時点では日本周辺における観測史上最大の地震でした。震源域は広大で、岩手県沖から茨城県沖までの南北約 500 km、東西約 200 km となっています。

最大震度は宮城県栗原市の震度 7 で、宮城・福島・茨城・栃木の 4 県 36 市町村と仙台市内では震度 6 強を観測しました。これは明治以降の日本の地震被害としては関東大震災に次ぐ 2 番目の規模の被害となりました。

この地震で、場所によっては波高 10m 以上、最大海上高 40.1m の巨大な津波が発生し、太平洋沿岸部が壊滅的な被害を受けました。

地震発生から約 1 時間後には、海上約 14 ~ 15m の津波に襲われた東京電力株式会社福島第一原子力発電所では、1 ~ 5 号機で全交流電源を喪失したため、原子炉の冷却ができなくなり、1 号炉・2 号炉・3 号炉で次々と覆屋建物が水素爆発するとともに炉心溶融（メルトダウン）が発生し、ベント作業によって大量の放射性物質の漏洩するといった重大な原子力事故に発展しました。

東日本大震災とは、これらの東北地方太平洋沖地震と、これによって発生した巨大津波による被害、そして巨大津波によって損傷を受けた福島第一原子力発電所の放射性物質の漏洩事故を含む一連の複合災害のことを指します。

令和 2 年 (2020) 12 月 10 日時点の震災による死者・行方不明者は東北地方を中心に 1 万 8425 人、建築物の全壊・流失・半壊は 40 万 4912 戸、震災発生直後のピーク時の避難者は約 47 万人と報告されています。

また、令和 3 年 (2021) 2 月 28 日時点の避難者などの数は 4 万 1241 人となっており、避難が長期化していることが特徴となっています。



港から流されてきた漁船



集積した瓦礫の中には大型トラックもみえる



津波が去ったあとのようにす

# 東日本大震災の被害



倒壊した土蔵づくりの建物（小高区）



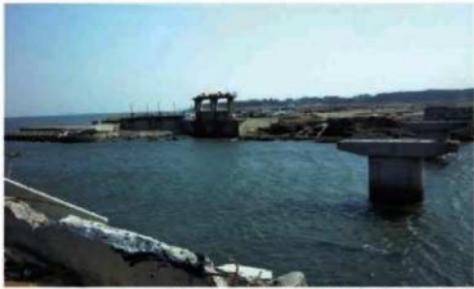
押し流された自動車など（原町区）



集積した瓦礫のやま（鹿島区）



建物基礎ごと破壊された住宅（原町区）



橋干が流れき橋脚部分だけが残る様（原町区）



約200m上流に流れついた橋干の一部（原町区）



瓦礫の中の一本道（鹿島区）



なぎ倒されたコンクリートの橋梁（原町区）

# 災害公営住宅整備事業

福島県では、東日本大震災の地震・津波による住宅被害と、福島第一原子力発電所事故による避難指示区域の設定という2種類の災害が原因の住宅困窮が生じたため、災害公営住宅の整備が始まりました。

被災者への居住環境の整備として、南相馬市は地震・津波で住宅を失った被災者に対し、安定して廉価な「災害公営住宅」を整備することになりました。

南相馬市が整備する災害公営住宅は、鹿島区3団地・原町区5団地が順次建設され、警戒区域の指示が解除された小高区で3団地の整備が進み、最終的には合計11団地が建設されました。



災害公営住宅一覧

区	番	事業名	団地・住宅名	住宅形態	面積り - 戸数	供用開始
原	1	(仮称) 唐島 西町災害公営住宅整備事業	西町団地	RC造 3階建	2DK - 15戸	平成26年10月
	2	(仮称) 西川 原町災害公営住宅整備事業	西川原団地	木造平屋建	4DK - 15戸	平成26年4月
町	3	(仮称) 西川 原町二災害公営住宅整備事業	西川原第2団地	RC造 2階建	2DK - 20戸	平成28年4月
	4	(仮称) 大町第2災害公営住宅整備事業	大町東団地	RC造 3階建 木造2階建(低層)	2DK - 26戸 3DK - 32戸	平成27年4月
区	5	(仮称) 大町第1災害公営住宅整備事業	大町西団地	RC造 5階建	3DK - 20戸	平成27年4月
	6	(仮称) 大町第3災害公営住宅整備事業	大町南団地	RC造 3階建 RC造 5階建	2DK - 17戸 3DK - 12戸	平成28年4月
高	7	(仮称) 道東区内装災害公営住宅整備事業	道浜団地	SG造平屋建	2DK - 28戸	平成28年4月
	8	(仮称) 道町区内装・合併災害公営住宅整備事業	SG3団地	SG3階建	2DK - 21戸	平成28年4月
小	9	(仮称) 小高永井1災害公営住宅整備事業	小高永井1団地	木造平屋建 木造2階建(低層)	2DK - 34戸 3DK - 6戸	平成28年4月
	10	(仮称) 万ヶ瀬災害公営住宅整備事業	万ヶ瀬災害公営住宅	木造2階建(低層)	3DK - 2戸	平成28年4月
区	11	(仮称) 小高区内地・合併災害公営住宅整備事業	小高区上野団地	木造平屋建(低層) 木造2階建(低層)	2DK - 8戸 3DK - 10戸	平成28年4月

BRC通りは鉄筋コンクリート通り、5通りは鉄骨造りのこと



【唐島区 西川原・第二災害公営住宅団地】

戸建て住宅や団地住宅などを組み合わせて、被災者のニーズに合わせて整備が行われた。写真奥の団地部分が「中才遺跡」の発掘調査地点。

# 中才遺跡

中才遺跡は鹿島区内を流れる真野川と上真野川が合流する付近に発達した自然堤防の縁辺に立地する縄文時代の遺跡です。

平成26年（2014）に西川原第二団地の建設のために発掘調査を実施しました。

発掘調査では、縄文時代中期後葉から晩期後葉までの土器が出土しました。そのなかでも塩作りに用いられた土器片が多数出土しており、海岸線から離れた内陸部で製塩作業を行っていたようすが明らかとなりました。

また、湿潤な低地部分からは4基の土坑（穴）が確認され、その中からオニグルミなどの堅果類とともに編組製品（編み物）が出土しましたが、調査区付近では竪穴住居跡のような居住を示す遺構は確認できなかったことから、集落は離れた場所にあったと考えられます。



## 【製塩土器の出土状況】

長時間熱を受けたために、細かく割れて壊棄された土器。  
塩作りに用いられた土器の特徴がよく表れている。



【発掘調査のようす】

団地1棟分の敷地を、土層観察用のアゼを井桁状に残しながら掘り進めているところ。



## 【編物製品が出土したようす】

通常は土中で腐る有機質製品が、地下水位の影響で腐らずに出土した。



# 防災集団移転促進事業

防災集団移転促進事業は、東日本大震災による大津波の被害を受け、家屋が全壊・流出した宅地を市が買いあげ、市が新たに造成した住宅団地に住宅地の移転を促す事業で、いわゆる「高台移転」と呼ばれるものです。

防災集団移転促進事業の対象となる世帯は、今後も津波による被害が想定される「災害危険区域」に指定された区域に居住していた世帯とされました。

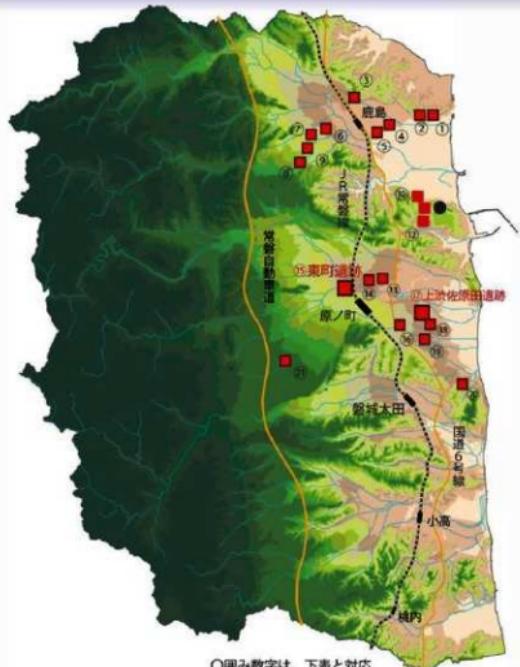
移転先の住宅団地は、平成 27 年度（2015）に 21 地区、304 区画の造成・契約が完了し、令和 2 年度（2020）には 299 戸が完成入居済みとなりました。

防災集団移転促進事業では、可能な限り埋蔵文化財包蔵地を避けるかたちで協議が進みました。原町区の小川町工区と上浜佐工区の 2 団地では、埋蔵文化財包蔵地内における造成が避けられなかったことから、発掘調査を実施しました。



【整備された集団移転団地】

上浜佐工区（上浜佐原田遺跡）の現在のようす。新しい住宅が軒を並べて建てられ、被災者の新たな生活の場となっている。



○囲み数字は、下表と対応

防災集団移転住宅一覧

区	No.	地区名	戸数	面積
鹿 島 区	1	南海老	6	0.6ha
	2	北海老	13	1.5ha
	3	南屋形	8	0.6ha
	4	北右田	5	0.6ha
	5	鹿島	8	0.7ha
	6	寺内	48	4.5ha
	7	上寺内 1	14	1.4ha
	8	上寺内 2	7	1.0ha
	9	上寺内 3	5	0.6ha
原 町 区	10	大内	5	0.5ha
	11	金沢	5	0.7ha
	12	金沢 2	5	0.6ha
	13	上高平 1	7	0.6ha
	14	上高平 2	5	0.3ha
	15	小川町	57	4.3ha
	16	北原	23	1.8ha
	17	上浜佐	32	3.2ha
	18	萱浜 1	18	1.6ha
	19	萱浜 2	15	1.4ha
	20	季	7	0.6ha
	21	本陣前	11	0.8ha

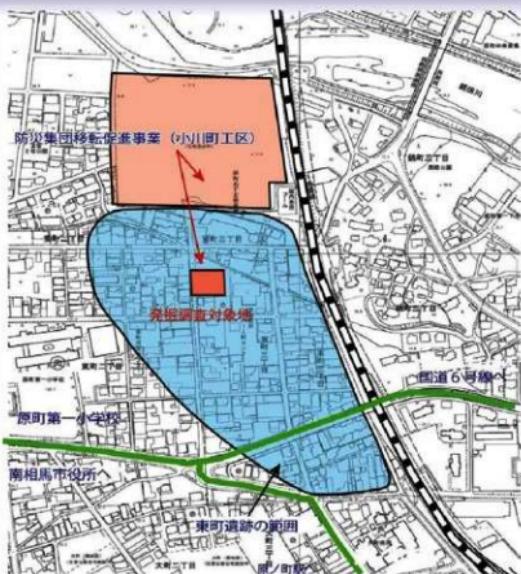
# 東町遺跡

原町区の東町遺跡の発掘調査は、平成25年(2013)に防災集団移転促進事業(小川町工区)のために実施しました。

発掘調査では、縄文時代中期頃の竪穴住居跡29軒や多くの土坑、平安時代の竪穴住居跡5軒・掘立柱建物跡5棟が確認され、多くの縄文土器が出土しました。

特に縄文時代の竪穴住居跡は重なるようにして濃密に分布していることから、集落はさらに広範囲に広がっていると考えられます。

早くから市街地化が進んだ市街地で、これほど残りの良い集落遺跡が発見されるとは、思いもよらませんでした。



【東町遺跡の全景写真】

832m<sup>2</sup>の調査区のなかに、縄文時代中期の竪穴住居跡が無数に重なり合いながら造られている。



【縄文時代の竪穴住居跡】地面を掘りくぼめた床には4本の柱穴が見える。住居の中火からやや下付近には、石を組んだ複式炉がある。



【小学生の遺跡学習】

近くの小学校の児童たちが、発掘調査を見学にきたときのようす。人間と比べると竪穴住居跡の規模がより分かる。

【複式炉】

縄文時代中期に盛行する炉跡。石を組んで炉を作り、先端部分には1～3個の縄文土器が埋められている。



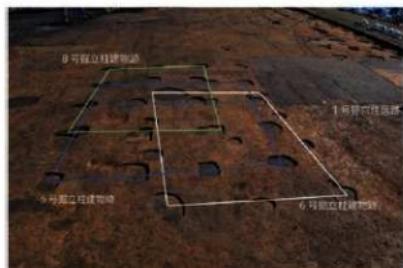
# 上渋佐原田遺跡

原町区の上渋佐原田遺跡の発掘調査は、平成25年（2013）に防災団体移転促進事業（上渋佐工区）造成のために実施しました。

発掘調査では、遺構・遺物の分布状況から東側部分をA区、西側部分のB区と区分し、合計約6,000m<sup>2</sup>の発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡13軒・掘立柱建物跡28棟のほか、土師器や須恵器などの土器が出土しました。

上渋佐原田遺跡周辺の発掘調査でも同時期の竪穴住居跡等が多数発見されていることから、大規模な集落があったと考えられます。



【重なり合う掘立柱建物群】

3号竪穴住居の周囲に建設された掘立柱建物は、3号竪穴住居の建て替えに連動するように複数回の建て替えが行われている。



【3号竪穴住居跡と周辺の掘立柱建物群】

4回の建て替えが行われた3号竪穴住居の周囲には、重なり合うように多くの掘立柱建物が繰り返し建設されている。



【3号竪穴住居跡】

A地区にある建物群の中心となる周堀を巡らした大型の竪穴住居跡。複数回の建て替えが行われており、長期間継続して存在したと考えられる。



【B 地区の発掘調査のようす】  
8世紀頃には掘立柱建物 10棟が建設され、9世紀頃には竪穴住居 11棟が造られており、時期により敷地利用が変化していることが判明した。



【12号竪穴住居跡】

1回の建て替えが行われた竪穴住居跡。新しい時期の住居には鍛冶炉が設けられていた。



【18号掘立柱建物跡】

桁行3間×梁行2間の主屋の周囲に溝が巡る建物。溝は建物を囲う施設の可能性がある。



【12号竪穴住居跡出土土器】

カマド付近から出土した煮炊きに用いられた壺。



【円面硯の出土状況】

小さな穴の中に硯の上部が下に向いた状態で出土したようす。



【円面硯】

集落の中に文字を書くことのできる識字層がいたことを示している。

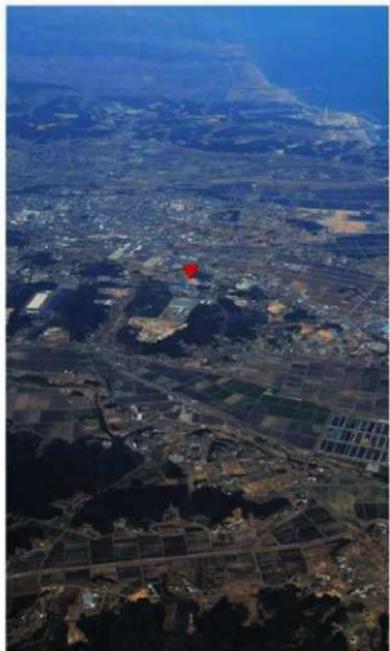
# 下太田工業団地造成事業

下太田工業団地造成事業は、原町区下太田地区に工業団地を造成する計画です。

この事業は、ロボット産業分野をはじめとする産業集積を推進することで、新たな雇用を確保し、避難住民の早期帰還と地域再生の加速化を進めるために計画されました。

当初、工業団地造成地区内には埋蔵文化財は所在していませんでしたが、造成作業中の重機が岩盤を掘削していた際に、古墳時代終末期の横穴墓が発見されました。

保存協議では、現状での保存は困難との判断に至ったため、平成 29 年度（2017）に 22 基の横穴墓の発掘調査を実施しました。



【原町区を上空から撮影した写真】

▼で示したところが西迫横穴墓の位置。丘陵部分で工業団地の造成が行われている。



【造成工事中に発見された横穴墓】

掘削重機が岩盤を削っていた際に、横穴墓の玄室天井部分に穴が開いた状況。穴の奥には玄室の入り口となるアーチ型の玄門が見える。

# 西迫横穴墓群



【西迫横穴墓群の分布】



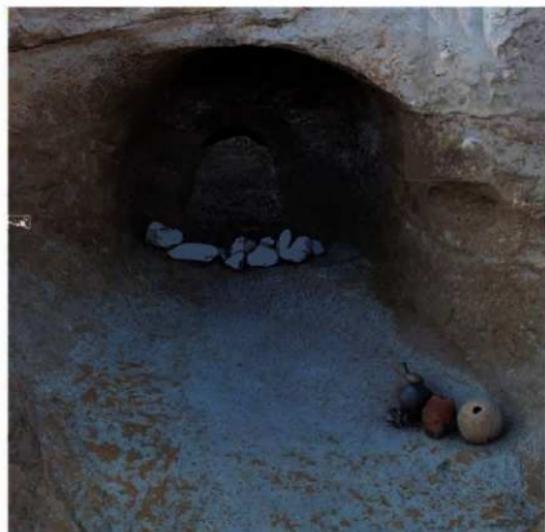
【14号墓の玄室】

遺体を埋葬する玄室の調査のようす。  
床の中央に排水のための溝が掘られている。



【遺物の出土状況】

写真左はトックリ形の瓶類。前庭部に供えられた土器。  
右は碧玉製の勾玉。



【玄室の入り口のようす】

玄門には石が積まれており、前庭部には土器がまとめて出土した。



【発掘調査のようす】

横穴墓は急な崖面に造営されているために、足場を組み安全対策を講じて調査を進める。

昔の人は、どのようにして横穴墓を築き、遺体を埋葬したのであろうか。

# 大規模園芸施設造成事業 南海老南町遺跡

大規模園芸施設整備事業は、大津波によって大きな被害を受けた鹿島区南海老地区で計画された復興事業のひとつです。

南相馬市は被災した宅地を防災集団移転促進事業で買いあげ、その跡地利用として、農業者が安全・安心な農産物を生産・加工・販売するための環境整備施策として、生産法人化による産業を再建することを目的とした大規模園芸施設を整備し、農業支援の場を提供することになりました。

大型園芸施設の造成区域には7世紀の集落と、中世以降の建物が分布しており、保存協議では、当初 51,000 m<sup>2</sup>であった調査対象面を設計変更することで、発掘調査面積を約 6,000 m<sup>2</sup>まで縮小され、遺跡の大部分が現状のままで保存されることになりました。



【南海老南町遺跡の発掘調査区を上空から見たようす】  
防潮堤や海岸防災林などの復興事業が進んでいる。



【発掘調査のようす】  
重なり合うように建設された掘立柱建物。



【整備された園芸施設】  
大型のビニールハウスが立ち並んでいる。



【南海老南町遺跡の遺構分布】  
建物の主軸方位をそろえた、多数の掘立柱建物が建設されている。



【埋納されたカワラケ】  
30点のカワラケが上下4段に重なる  
ように埋納されていた。

# 罹災者住宅移転発掘調査事業

罹災者住宅移転発掘調査事業は、震災によって家屋が流出・全壊・大規模損壊の判定を受けた被災者が、自己再建で新たな住宅を建設することに対応するための発掘調査事業です。

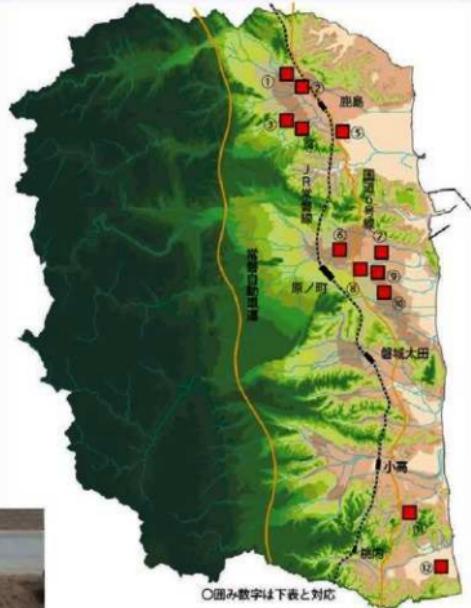
罹災者の住宅再建は、公共事業とは異なり、年次計画に基づいて施工されることなく、住民の住宅建設時期に合わせて柔軟に対応することが求めされました。

この事業では、最終的に八幡林遺跡をはじめとする 12 遺跡 20 地点で発掘調査を実施しました。



【罹災者住宅移転発掘調査のようす 八幡林遺跡】

個人住宅建設は免振調査面積が狭小であるため、遺跡全体の様相が不明な場合が多いが、このような小さな発掘調査の積み重ねが、遺跡の内容を知るうえで重要である。



罹災者住宅移転発掘調査一覧

区画	遺跡名	様式	時代	遺構	遺物
1	保内道路 7 次調査	集落・古墳	绳文～平安	古墳・土坑等	陶瓦土器・土師器
2	八郎内道路 5 次調査	散在地	古墳	—	—
3	八幡林道路 5 次調査	集落・古墳	绳文～平安	—	—
4	八幡林道路 6 次調査	散在地	—	古墳・土坑	土師器
4	人神地道路 2 次調査	散在地	绳文	溝跡	—
4	人谷地道路 3 次調査	散在地	绳文	溝跡	—
5	小高田道路 2 次調査	散在地	中世	—	—
5	小高田道路 2 次調査	散在地	溝跡	—	—
6	上高平高田地区	—	—	—	—
7	保井B道路 6 次調査	—	—	—	—
7	保井B道路 9 次調査	集落・古墳	平安～平安	古墳	—
7	保井B道路 10 次調査	—	—	—	—
8	高見町B道路 3 次調査	散在地	绳文～平安	—	—
8	保井D道路 9 次調査	—	—	壁穴遺構・溝・土坑	—
9	保井D道路 11 次調査	集落	平安～平安	—	—
9	保井D道路 12 次調査	—	—	壁穴・柱跡・土坑等	土師器・陶器器
10	高山道路 2 次調査	—	平安～平安	土基築造構	漆油土器（保井式）
10	高山道路 3 次調査	集落・古墳	平安～平安	複数施設（大根形窓）	菅笠・石製模造品
11	内田内南台道路 4 次調査	集落・散布地	绳文～平安	壁穴・柱跡等	土師器・陶器器
12	通町真壁 13 次調査	集落・散在地	绳文～平安	—	—

## 榎内遺跡（横手古墳群A地区 14号墳）

榎内遺跡は、鹿島区の真野川北岸の河岸段丘の縁辺にあります。また、遺跡の範囲内には福島県史跡横手古墳群A地区の古墳が分布しています。

今回は約400mを発掘調査し、古墳時代終末期の古墳1基と縄文時代の落し穴などが見つかりました。



【榎内遺跡（横手古墳群A地区 14号墳）】

発掘調査で新たに発見された円墳。墳丘は削平を受け失われていたが、墳丘の周囲にある周溝が円形に巡っているようすがわかる。



【発見された埋葬施設】

墳丘の中央部分に残っていた石床。本来は、石床の4辺に側石が立てられ、天井部は板石で覆われていたものが、後世の土地利用で削られてしまった。

## 桜井D遺跡

桜井D遺跡は、原町区の新田川南岸の河岸段丘の縁辺にあります。これまでの発掘調査では、広範囲で平安時代を中心とする竪穴住居跡が確認されており、8世紀から9世紀にかけた時期の大規模な集落遺跡が展開していると推定されます。



【大型の土坑】



【大型の土坑】

性格不明の大型土坑。墨書き土器・鉄製直刀・L字形鉄製品などが出土した。



【遺物の出土状況】

鉄製直刀と「入」と墨書きされた土師器の环。

【大規模な掘立柱建物跡】

桁行3間×梁行3間の南北棟の掘立柱建物跡。桜井D遺跡では最も規模の大きな掘立柱建物。



【鉄製鋤先】

竪穴住居跡から出土した鉄製の鋤先。

## その他の発掘調査

震災発生から10年間、市内では復興事業以外にもさまざまな開発事業が計画され、埋蔵文化財の発掘調査を行ってきました。

また、被災した国史跡観音堂石仏や、休止していた泉宮御遺跡・浦尻貝塚の史跡整備も再開されました。

### 鷺内遺跡（鹿島区）



【4号編組製品】

土坑から出土したオニグルミが入れられたカゴ状製品。カゴ状製品が使用されていた状態で出土することは非常に珍しい。



【調査のようす】

集積したクルミを慎重に振り進めているところ。



【掘立柱建物跡】

複数の建物が規則的に配列しながら、建て替えが行われている。

### 観音堂石仏（小高区）

#### 【国史跡観音堂石仏】

覆屋の再建のため、観音堂の前庭部分の遺構の有無を確認した。  
覆屋は、平安時代の創建を加えて5段階の建て替えが行われていることが判明した。



### 八幡林遺跡（鹿島区）



【八幡林遺跡出土線刻土器】

八幡林遺跡で調査された古墳時代前期の竪穴住居跡から出土した「舟」の線刻土器。



【板木沢C遺跡

（鹿島区）

#### 【板木沢C遺跡の木炭窯跡】

平安時代の木炭窯跡。  
焼成された木炭が取り出されることなく、窯跡の中に残されていた。

# 発掘調査技術支援

東日本大震災で被災した、岩手県・宮城県・福島県の復興調査には、全国から優秀な埋蔵文化財担当職員が支援に駆けつけてくれました。

福島県には 26 都道府県 2 市 1 町から、総数 55 名の埋蔵文化財担当職員が復興調査を支えてくれました。さらに南相馬市では福島県内の市町村の埋蔵文化財担当職員の支援も受けました。



茨城県



富山県



福島県・二本松市



白河市



沖縄県



長崎県



福島県文化振興財団



長野県



京都府



さいたま市



福島県



高知県



奈良文化財研究所



奈良文化財研究所



奈良文化財研究所

# 復興の状況



防災集団移転促進事業

現在の上浦佐原田遺跡のようす。  
白線の部分が調査区。



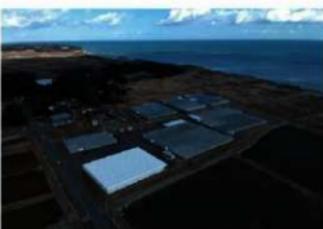
防災集団移転促進事業

東町遺跡の現在。左写真が小川町工区の主体部分。右写真の白線部分が調査区。



災害公営住宅整備事業

西川原第二団地のようす。右写真の手前の戸建て団地が西川原団地。奥の4棟が西川原第二団地(中才遺跡)。



大型園芸施設整備事業

南海老南町遺跡の現在のようす。ビニールハウスの施設が立ち並んでいる。



福島県特別支援学校建設

ケルミカゴが出土した鷺内遺跡を上空から撮影した写真。中才遺跡が隣接しているようすがわかる。

# 復興調査の実績

No.	遺跡名	調査原因	調査対象面積	調査面積	調査の種別	調査時期
1	大森遺跡	防災集団移転促進事業	6,500m <sup>2</sup>	280m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
2	北右田地区	防災集団移転促進事業	6,600m <sup>2</sup>	120m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
3	上寺内（2）地区	防災集団移転促進事業	9,900m <sup>2</sup>	140m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
4	上高平地区（1）	防災集団移転促進事業	6,100m <sup>2</sup>	120m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
5	鹿島地区	防災集団移転促進事業	7,471m <sup>2</sup>	200m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
6	寺内地区	防災集団移転促進事業	41,680m <sup>2</sup>	1,923m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
7	上寺内（1）地区	防災集団移転促進事業	14,026m <sup>2</sup>	175m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
8	若宮遺跡	防災集団移転促進事業	6,481m <sup>2</sup>	655m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
9	上寺内（3）地区	防災集団移転促進事業	6,000m <sup>2</sup>	82m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
10	北泉地区	防災集団移転促進事業	7,000m <sup>2</sup>	300m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
11	堂ヶ迫地区	防災集団移転促進事業	15,314m <sup>2</sup>	500m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
12	東町遺跡	防災集団移転促進事業	44,131m <sup>2</sup>	175m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
13	上浜佐原田遺跡	防災集団移転促進事業	44,200m <sup>2</sup>	1,100m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
14	萱浜地区（1）	防災集団移転促進事業	15,500m <sup>2</sup>	546m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
15	萱浜地区（2）	防災集団移転促進事業	14,400m <sup>2</sup>	440m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
16	聖地区	防災集団移転促進事業	5,700m <sup>2</sup>	120m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
17	本陣前地区	防災集団移転促進事業	8,380m <sup>2</sup>	140m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
18	鹿島区西町地区	災害公営住宅整備事業	3,819m <sup>2</sup>	110m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
19	鹿島区西川原第一地区	災害公営住宅整備事業	3,819m <sup>2</sup>	240m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
20	原町区大町地区	災害公営住宅整備事業	4,200m <sup>2</sup>	140m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
21	中才遺跡	災害公営住宅整備事業	5,841m <sup>2</sup>	140m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
22	小高区東町地区	災害公営住宅整備事業	6,908m <sup>2</sup>	69m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
23	小高区上町地区	災害公営住宅整備事業	6,908m <sup>2</sup>	69m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
24	萱浜・下浜佐地区	復興工業団地造成事業	710,000m <sup>2</sup>	1,991m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
25	南海老南町遺跡	大型園芸施設整備事業	51,000m <sup>2</sup>	900m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
26	原山遺跡	罹死者住宅移転発掘調査事業	995m <sup>2</sup>	70m <sup>2</sup>	本調査	平成24年度
27	大谷地遺跡2次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	972m <sup>2</sup>	122m <sup>2</sup>	発掘調査	平成24年度
28	桜井D遺跡9次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	963m <sup>2</sup>	130m <sup>2</sup>	発掘調査	平成24年度
29	桜井B遺跡6次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	888m <sup>2</sup>	20m <sup>2</sup>	試掘調査	平成24年度
30	高見町田跡3次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	566m <sup>2</sup>	18m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
31	八郎内遺跡5次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	385m <sup>2</sup>	30m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
32	大谷地遺跡3次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	660m <sup>2</sup>	65m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
33	桜井D遺跡1次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	329m <sup>2</sup>	329m <sup>2</sup>	発掘調査	平成25年度
34	八幡林遺跡5次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	291m <sup>2</sup>	12m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
35	小島田駒跡	罹死者住宅移転発掘調査事業	840m <sup>2</sup>	30m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
36	桜井D遺跡12次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	200m <sup>2</sup>	200m <sup>2</sup>	発掘調査	平成25年度
37	八幡林遺跡6次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	1,051m <sup>2</sup>	92m <sup>2</sup>	試掘調査	平成25年度
38	原山遺跡3次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	500m <sup>2</sup>	71m <sup>2</sup>	発掘調査	平成25年度
39	樅内遺跡2次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	396m <sup>2</sup>	369m <sup>2</sup>	発掘調査	平成25年度
40	小島田駒跡2次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	1,313m <sup>2</sup>	30m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
41	桜井B遺跡9次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	566m <sup>2</sup>	45m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
42	桜井B遺跡10次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	566m <sup>2</sup>	99m <sup>2</sup>	発掘調査	平成26年度
43	角部内南台遺跡4次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	1,420m <sup>2</sup>	96m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
44	浦尻貝塚13次調査	罹死者住宅移転発掘調査事業	600m <sup>2</sup>	40m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
45	上高平高田地区	罹死者住宅移転発掘調査事業	3,990m <sup>2</sup>	20m <sup>2</sup>	試掘調査	平成26年度
46	東町遺跡4次調査	防災集団移転促進事業	832m <sup>2</sup>	832m <sup>2</sup>	発掘調査	平成25年度
47	上浜佐原田遺跡4次調査	防災集団移転促進事業	6,000m <sup>2</sup>	6,000m <sup>2</sup>	発掘調査	平成25年度
48	南海老南町遺跡	大型園芸施設建設事業	6,000m <sup>2</sup>	6,000m <sup>2</sup>	発掘調査	平成27年度
49	中才遺跡2次調査	災害公営住宅整備事業	841m <sup>2</sup>	841m <sup>2</sup>	発掘調査	平成26年度
50	西迫横穴墓群3次調査	下太田復興工業団地造成事業	6,700m <sup>2</sup>	6,700m <sup>2</sup>	発掘調査	平成29年度
合計			1,089,742m <sup>2</sup>	32,936m <sup>2</sup>		

# 協力者一覧

文化庁文化財部記念物課・復興庁福島復興局・東北大学・福島大学・国立文化財機構奈良文化財研究所・福島県教育委員会・福島県教育委員会文化財課南相馬駐在・福島県文化振興財団・福島県文化財センター白河館・福島県立博物館・兵庫県教育委員会・長野県教育委員会・青森県教育委員会・京都府教育委員会・富山県教育委員会・沖縄県教育委員会・茨城県教育委員会・福岡県教育委員会・高知県教育委員会・和歌山県教育委員会・愛知県教育委員会・熊本県教育委員会・鳥取県教育委員会・長崎県教育委員会・香川県教育委員会・北海道教育委員会・山梨県教育委員会・静岡県教育委員会・新潟県教育委員会・岩手県教育委員会・埼玉県教育委員会・東京都教育委員会・山形県教育委員会・大阪府教育委員会・さいたま市教育委員会・神戸市教育委員会・築上町教育委員会・白河市教育員会・田村市教育委員会・北塩原村教育委員会・二本松市教育委員会・湯川村教育委員会・会津美里町教育委員会・株式会社シン技術コンサル・有限会社桜小路電気

禰宜田住男・近江俊英・国武貞克・内田和伸・藤澤 敦・菊地芳朗・高橋 満・森 幸彦  
藤原妃敏・田中 敏・山本 誠・若林 卓・妹尾 聰・野村信生・福島孝行・橋本正春  
岡本淳一郎・島田修一・中山 晋・作山智彦・橋本玲未・甲斐昭光・宮地聰一郎・藤原直人  
山崎孝盛・萩野谷正宏・古川 匠・齋藤貴史・中居和志・木川正夫・宮崎敬士・小口英一郎  
業天唯正・山梨千晶・真鍋貴匡・内田和典・柴田亮平・山田侑生・福島雅儀・武田寛生  
高橋保雄・渡瀬健太・斎木 巍・加藤 学・最上法聖・堀口智彦・鳥居達人・藤田 祐  
佐藤友子・千葉正彦・杉崎茂樹・吉岡弘樹・高尾栄一・芝康次郎・和田一之輔・青木 敬  
馬場 基・石村 智・森川 実・森先一貴・諫早直人・川畑 純・大澤正吾・小田祐樹  
栗山雅夫・中村一郎・玉田芳英・渡辺武彦・金田明大・玉川一郎・二上裕嗣・鈴木 功  
鈴木一寿・松林秀和・逸見克己・布尾和史・佐藤真由美・吉田陽一・梶原文子・阿部健太郎  
梶原圭介・岡部睦美・松本 茂・門脇秀典・福田秀生・村木 亨・荒木 隆・長嶋雄一  
木田寿憲・西戸純一・佐藤耕三・巒田克史・今野 徹・青山博樹・千葉勇二・小野忠大・山本友紀  
山岸英夫・吉野滋夫・木村裕之・鈴木俊明・高田昌幸・阿部智彦・香川慎一・津田直子  
中村剛志・大栗行貴・渡部 紀・佐藤 啓・吉田秀享・飯村 均・菅原祥夫

(順不同・敬称略)

